



言葉が出にくかったり、つかえたり
「吃音 最後まで話を聞いて」

上田・丸子中で当事者ら講演

上田市の丸子中学校で、言葉が出にくかったり、つかえたりする「吃音」について学ぶ講演会が開かれた。当事者で整体院を牛曲市で営む清水直樹さん(32)が全校生徒246人を前に講演。清水さんは「周りに吃音の人がいたら言葉が出てくるまで待つ、話したいことを最後まで聞いてほしい」と呼び掛けた。

吃音について当事者としての思いを語る清水さん(中央)

清水さんは、これまで一番大変だったことに中学時代の日直当番を挙げた。人前で話すことがつらかったとし、「音読では、漢字が読めても言葉が出なかった」と振り返った。「『どってもいいんだよ』という仲間のおかげで、話せるようになってきた」とも話した。

松本市の言語聴覚士、内藤麻子さんらによる吃音の解説も。内藤さんは「世界中で100人に1人は吃音とし、『米大統領選で勝利を確実にしたバイデン氏もそうだ』などと説明した。「吃音の話し方は、その人が持つ生まれた自然な話し方」と訴えた。

主催は同校PTA。3年の今井健作さん(15)は「吃音の人に会ったら最後まで話を聞き、しゃべるのが嫌いにならないようにしたい」と話した。